

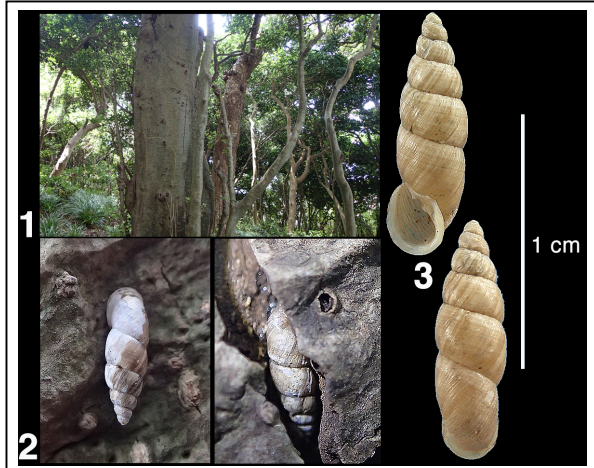
トカラコギセル *Reinia ashizuriensis* M. Azuma

【選定理由】

現在の愛知県下では、竹島(蒲郡市)と沖島(西尾市)に生息するとされる。竹島ではごく少数個体ではあるが、近年(2013年)まで生息が確認されている一方、沖島の状況は明らかではなかった。堀越(1977)は、沖島で20個体程確認し、減少の一途を辿っていると報告した。2014年7月に行われた調査の際、沖島(三河湾)では僅か2個体の生息が確認された(大貫・他, 2015)。愛知県では現在、この2島以外での生息確認記録はない。生息密度が著しく低く、生息域は小さな島嶼環境である竹島と沖島の常緑樹の樹幹に限られる稀少種である。愛知県の本種は、東限分布個体群であり、生物地理の観点からもきわめて重要な個体群である。全国的にも絶滅が危惧される種であり、愛知県下の個体群は、減少傾向が特に著しく、絶滅の危険性がきわめて高い種と考えられる。

【形態】

成貝は、殻長10.3~10.7mm、殻径2.9~3.2mm程度の円みを帯び短い紡錘形の小型種である。殻は薄く、老成すると殻表には明瞭な火焰彩が現われ縞模様美しい。体層の内面側方には、殻口近くまで延びるやや長い主襞と、短い上腔襞および上腔襞のさらに半分程度の下腔襞の隆起があり、若い成貝では透過されて殻の外側より確認出来る。殻口は老成個体では肥厚し、楕円形の厚い唇縁となる。殻口上部の上板の突起は小さく、その正面右側の下板はやや強く張り出し、殻口から明らかに確認することができる。下軸板は唇縁に現れない。



1, 2: 東幡豆町沖島, 2014年7月12日, 大貫貴清採集, 撮影, 3: 蒲郡市竹島, 1988年4月30日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

現時点では、三河湾の2島(竹島と沖島)のみに生息が確認されている(大貫・他, 2015)。かつて伊良湖岬にも分布していたことが明らかとなっているが、1976年7月採取標本(豊橋市自然史博物館所蔵TMNH-MO-27931~27933)を最後に、絶滅したと考えられる(早瀬・他, 2017)。渥美半島先端部の宮山原生林にも生息するとの報告があるが、近年、当地が調査されたことはない。ただし、宮山の麓周囲の調査では全く確認されず、現在生息している可能性はきわめて低いと思われる。

【世界および国内の分布】

これまでは中国産のイーストレーキコギセルの亜種と考えられていたが、近年は遺伝子解析の結果より別種に扱われる(Motochin et al., 2017)。したがって、日本固有種と考えられ、現在の分布は、愛知県を東限とし、四国南西部、九州南部からトカラ列島・奄美諸島にかけての海岸近くの常緑樹の林などである(湊, 2014; 大貫・他, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

愛知県内での本種の確認地の環境は、三河湾の沖島と竹島の常緑樹林である。過去に記録のある伊良湖岬なども海岸に面した環境である。本種は海岸のヤブツバキなどの常緑樹の樹幹に付着して生息する。胎生(卵胎生)で、親個体から直接、稚貝が産み出される。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在、愛知県下では、竹島と沖島のみに生息が確認されるが、いずれの生息地も、ごく少数個体がごく稀に確認される程度である。近い将来に絶滅の可能性がきわめて高い状況下にある。愛知県下で最も絶滅に近く位置している生物のひとつと言っても過言ではない。竹島では農薬散布が減少要因とされ、沖島では観光開発のため本来生息しないニホンザルを放した経緯があるほか、伊良湖岬では海岸周囲の遊歩道の整備(拡幅および舗装)で環境悪化した(野々部・他, 1977)経緯がある。また、貝類収集マニアの採集圧も少なからず影響していると考えられる。

【保全上の留意点】

現在、本種の生息が確認される竹島と沖島の自然環境を維持することが重要である。樹幹に付着し生息する種であるため、樹木の伐採を行わないことが特に重要である。このほか、早急に捕獲規制を検討し、採取は厳に自粛する必要がある。

【特記事項】

現状の自然環境を維持するのみでは、本種個体群の維持はきわめて難しい段階に入ったと考えられる。人工飼育下での個体群維持を試みる段階にあると思われる。早急に検討が必要である。本種の学名(属および種小名)は、従来のイーストレーキコギセルの亜種から変更された(Motochin et al., 2017)。

【引用文献】

- 早瀬善正・西 浩孝・河辺訓受・木村昭一・矢橋 真・大貫貴清・岩田明久・仲田彰男, 2017. 伊良湖岬の陸産貝類, かきつばた, (42): 1-5.
堀越 徹, 1977. 三河湾「沖の島」調査会報告, かきつばた, (3): 6.
湊 宏, 2014. トカラコギセル, p.138. in: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 口絵 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.
Motochin, R., Wang M. & Ueshima, R., 2017. Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). Zoological Journal of the Linnean Society, 181 (4): 795-845.
野々部良一・後藤常明・山崎芳江, 1977. 伊良湖の貝類分布調査(II陸産), かきつばた, (2): 7.
大貫貴清・佐藤拓也・木村昭一・早瀬善正・吉川 尚, 2015. 沖島と前島(愛知県西尾市東幡豆町)の陸産貝類, かきつばた, (40): 39-42.

【関連文献】

- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, pp.23-40. in: 佐藤正孝・安藤 尚(編), 愛知の動物, 325pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

(早瀬善正)